



令和 2 年 1 月 1 日

南陽市議会議長 高橋 弘 殿

政風会会長 船山 利美



令和 元 年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第 4 条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容
調査期日	令和 元 年 11 月 13 日 (水) から 15 日 (金) まで 2 泊 3 日
調査場所	静岡県 ◎静岡市児童相談所 ◎静岡市議会 愛知県 ◎岡崎市こども発達センター ◎半田市半田運河浄化活動
調査目的	◎静岡市児童相談所：里親委託の推進支援事業について ◎静岡市議会：エネルギーの地産地消事業について ◎愛知県岡崎市：こども発達センター等整備運営事業について ◎愛知県半田市：半田運河浄化活動について
調査概要	◎静岡市児童相談所：里親委託の推進支援事業について 静岡市では平成 17 年度に児童相談所が開設されたが、相談対応件数は年々増加しており、近年ネグレクト、虐待なども多く、社会的養護が必要な子供の健やかな成長のために、家庭的な環境で養育する必要性から里親家族への推進をしている。 当初、「静岡市里親会」として発足し、その後、里親委託推進のために、NPO 法人「静岡市里親家庭支援センター」が開設された。 希望者の中には「家の跡継ぎ」「老後の面倒を見てもらう」「子供を育ててみたい」というような願望から里親を希望する方もいるとのことだが、後々トラブルや信頼関係が続かないなどもあることから、支援センターが市から里親支援業務全般を委託され、①「啓発」、②「研修」、③「相談・支援」を 3 本柱に掲げ、この 3 本柱の事業をセットとして一つの支援機関が一貫して担当することが望ましいとして活動している。 静岡市の特徴としては様々な「里親サロン」を開催して里親同士の交流が行われ絆を深め、マッチングから委託後支援まで含めた包括的な里親支援が実現している。 少しでも多くの子どもの健全育成のためには里親制度の重要性を感じた。

調査概要

◎静岡市議会：エネルギーの地産地消事業について

静岡市は、地球温暖化対策の推進、防災機能の活性化、更に市役所における電力調達コストの削減を図るため、自治体として国内初となる電力売買の一括契約と民間投資によるバーチャルパワープラントを組み合わせた「エネルギーの地産地消事業」に取り組んでいる。

エネルギーの地産地消事業に取り組んだ背景として、◎東日本大震災以降、各地域で進められている「エネルギーの地産地消」の仕組みの構築。◎電力の小売全面自由化を踏まえた全庁的な電力調達の見直し。◎小売り電気事業者の経営破たんに伴う売電収入の未収金発生リスク。◎市政運営のキーワードである「官民連携」の推進。と、国のエネルギー革新戦略の方針を踏まえ、事業内容の構築として進められた。

事業の概要としては市内清掃工場でゴミを燃やした熱エネルギーから電気を作っており、その余剰分の電力や再生可能エネルギーを小売り電気事業者が買い取り、市と契約し、市有施設へ供給している。特に注目したのは市内小中学校80校に蓄電池を設置し供給している。

事業の効果として、環境負荷の低い電力の活用による温室効果ガスの削減や民間資金投資に伴う経済波及効果、また、電力調達コストの削減、売電・買電を一括契約することで未収金発生リスクの軽減などが図られるとのこと。

地球温暖化対策が急務となっている中で、再生可能エネルギーなどの新たなエネルギーの地産地消事業の取組みは我々も考えていかなければならないと思う。

◎愛知県岡崎市：こども発達センター等整備運営事業について

岡崎市では高齢者・障がい児者を対象とする施設を整備し、市の福祉基盤の中心的な役割を担う総合拠点を「岡崎市福祉の村」としてスタートし、現在は「岡崎市こども発達センター等基本計画」が策定され、ユニバーサルデザインの理念に沿った複合施設として整備された。

主な事業内容としては、◎通所する親子に療育提供。◎子の集団生活適応と集団生活に必要な専門的支援の実施。◎障がい児支援利用計画の策定。◎保護者・きょうだい同士の学習会や交流会、イベント開催。などを行っている。

センターの中には「相談センター」「医療センター」「支援センター」の三つの施設があり、発達障害の早期発見、早期支援、専門療育など早期支援システムが構築されている。

先進的取組みで地域の保育園・幼稚園への移行をしており、包括的な子育て支援といえるものと感じた。

<p>調査概要</p>	<p>◎愛知県半田市：半田運河浄化活動について</p> <p>有名企業のミツカン本社がある市で、運河によってこの企業が発展してきたとも言え、この運河が家庭雑排水や工業排水などで汚れ悪臭が漂い、人も寄り付きにくくなったとのこと。</p> <p>そこで、「EM」を活用して半田運河を復活させようと民間組織として「やなベエコクラブ」が発足し、培養したEM活性液を半田運河に月2t放流している。代表の竹内陸治氏を中心に10年以上に渡って浄化活動に取り組み、現在では魚も住めるほどに浄化されており、その功績が認められ竹内氏は半田市から功労賞を受賞されている。</p> <p>本市も白竜湖の汚れが指摘されているが、自然遺産として残していくために様々考えられるが、再生に向けた取り組みとしてEM活性液を利用することも有効ではないかと感じた。</p>
<p>その他</p>	<p>◎ 静岡市のような政令指定都市で、本市とは比べ物にならないほどの大きな自治体にお邪魔をしての行政視察研修となったが、職員の方々には最後まで丁寧に対応して頂いた。</p> <p>雑談の中で話されていたが、こんな都会的なイメージのある自治体でも人口減少が進んでいるとのこと、少し意外な感じがした。東京一極集中が地方の人口減少を更に加速させており、特に私たちの地域のような農村部においては危機的状況といえる。我々も取り組む課題ではあるが、早急な国の対策も望まれる。</p>